

自然あそび

～砂や泥に触れる～

Picoナーサリ久我山駅前

テーマ：自然あそび

テーマの設定理由

春から生き物・植物の生態への興味関心の高まり・夏季の間に感触あそびを存分に楽しむ姿があった。

自然とのふれあい(土や砂含む)も経験できるように支えていくため。

活動スケジュール

期間 令和6年4月～令和7年3月

活動内容	クラス	人数
①砂や土に触れてあそぶ	0歳児	5名程度
②水と砂を混ぜて遊ぶ	0歳児・1歳児	5名程度
③性質を感じる	1歳児・2歳児	5名程度
④玩具を使って自然に関わる	0歳児・1歳児・2歳児	5名程度
⑤自然物を見立てて遊ぶ	2歳児	5名程度

活動①:砂や土の感触との出会い

保育者が砂に触る様子を見たり、少しずつ砂に触っていたこどもたち。

握ってみたり、型抜きしたものを潰してみたり、じっくり砂の感触を楽しんでいました。

Aくんはバケツに入った砂をひっくり返して手だけでなく体で砂の感触を感じていました。砂は冷たい、暖かい、サラサラする、固まる、重い、軽いなどなど様々な感触を経験できますね。まずは保育者の様子を見て、慣れたら自分で触ってみて、それぞれのペースで砂の感触を感じています。



【子どもたちの様子】

バケツいっぱい砂にスコップを立てて遊んでいた Bちゃん。スコップで砂がすくえることに気付くと、何度もすくう姿がありました。

「これでもすくえるよ」と保育者がコップで砂をすくい、バケツの横に置きました。するとバケツの砂がコップに入り、移動したことに気が付き、すぐにコップを手に取り、三本の指でつまんで少しずつバケツに戻していました。

【振り返りを踏まえた気づき】

はじめての砂場遊びでは砂を握って触って、感触を味わっていたたいようぐみさん。感触のみでなく、つまんで入れてみる、動かしてみる、というお部屋でも楽しんでいる遊びをする姿に、遊び方が少しずつ変化しているのを感じる場面でした。

活動②:水との出会い 泥あそびへ



公園の砂場でサラサラの砂を触って楽しんでいた D くん。途中で保育者がバケツに水を汲み、掘った穴に流し入れました。

穴に溜まった泥水に気がついたみちくん。すぐに手を伸ばし、触ってみます。水遊びのときとはまた違うドロッ、ジャリッとした感触との出会い…。何度も手をにぎにぎしながら味わっている様子でした。途中で保育者が泥団子を使ってみせると、握って「ぐちゃっ」と潰れる感触も味わっていました。

公園で遊んでいると水たまりを発見。

すぐに水に触ってみるお友だち、お友だちの様子をみてからツンツンと少しずつ触ってみるお友だち、じっと見つめてみるお友だち...などなど
はじめての水たまりとの触れ合い方は様々でしたがみんな興味津々な様子。

【振り返りを踏まえた気づき】

水を触った後に手を見ている C ちゃん。

濡れてるなあ、なにかついてるなあ、冷たいなあ...などなど、どんな事を考えているのでしょうか。

しばらくじっと手を眺めたあと、また水たまりに手を入れていました。

水といっても、温度、濁り、下に泥があるのかないのかなど、色々なことを感じる事ができますよね。どんなことを感じて触れているのだらうと保育者も改めて子どもたちの気持ちに思いを馳せる場面でした。

【子どもたちの様子】



活動③:毎日のあそびから性質を感じる

砂遊びの途中...水の入ったカップを用意してみました。

すぐに砂を入れ始めた A ちゃん。

スコップで少し入れて、人差し指で感触を確認...

砂を足して指で確認...と水と砂の分量を変えながら感触の変化を研究していましたよ。

自分で試行錯誤した経験は、大きな学びに繋がっていきそうですね。



【振り返りを踏まえた気づき】

6月の初め、宮下橋公園に行き始めた頃から毎日同じ水たまりの確認をしてから遊び始める Bくん。

今日も確認から始まりました。

保育者がそばに行くと「かたいねえ」と砂が固まっている様子を教えてくださいましたよ。

雨上がりは柔らかく、天気の良い日は硬くなるという違いを発見したのは、毎日の確認、観察があったからこそですね！

同じ場所、同じ遊びでも変化を見つける子どもたちの観察力にも驚かされます。

泥って不思議 試してみよう！

砂場で大きな穴を掘っていたもり組さん。

保育者が穴に水を入れてみると、みんなでじっくりと観察し、少しずつ砂に水が吸収されていく様子を見て、「(水)なくなっちゃう」と発見する姿が。完全に水がなくなると、もう一度水を運んできて、また入れてみるを繰り返していましたよ。

砂や水など、様々なものに触れながら、性質や変化などへの気付きが広がっていく姿が見られ、今後さらに砂遊びが発展していくのではないかと感じる場面でした。



【子どもたちの様子】

【振り返りを踏まえた気づき】

公園についた瞬間、昨日の続きのようにすぐに遊び始めたもり組さん。

掘った穴に水を運んだ後は、水溜まりの中に手を入れて感触を楽しんでいました。

すると、触っているうちに砂が泥状になっていることに気が付き、観察するお友だちが出てきて、泥の形状を見たりじっくりと触ったりと感覚を研ぎ澄ませて味わっている様子が。以前は水を溜めることが楽しかったけれども、また一つ違った楽しみ方を見つけたようでした。

同じ砂、水でも捉え方の変化を感じ、今後どのような遊び方が広がっていくか楽しみになった瞬間でした。



活動:④玩具を使って自然に触れる・集める

カップを使って、形を作っている保育者の様子をじっと見ていた A ちゃん。
“どうやらカップを使うらしい...”と学んだようで、カップをひっくり返し“トントン”と地面に当てて中を確認してしていました。
砂が入っていなかったため、カップを開けてみても中身は空っぽ。「あれれ...」と予想外の結果に不思議な表情。
保育者が「こうやって砂を入れるんだよ。」と伝えてみると、 A ちゃんも砂を入れて再挑戦。
そしてついに成功し、嬉しそうな笑顔を見せていました。

【子どもたちの様子】

【振り返りを踏まえた気づき】



砂場の横に水たまりを見つけました。
スコップを持ってきた Bくん。水たまりの土をゆっくりすくって、水の流れをじーっと見つめています。 B くんの様子を見ていた C くん。同じように持っていた玩具でそーっと水たまりをすくっていましたよ。

雨上がりらしいあそびです。乾いた砂とは異なる、見た目、すくったときの感触...。じーっと見つめて感じられたのではないのでしょうか。

集めるってたのしい！



【子どもたちの様子】

葉っぱを拾い、バケツの中に入れて集めていた B ちゃん。
中を覗くと、同じ大きさの葉っぱしか入っていませんでした。
バケツの中が葉っぱでいっぱいになるほど集めるのに夢中な様子が見られましたよ。

緑道を探索し、どんぐりを集めていた A ちゃん。見つけるごとに、一つ一つバケツの中に入れていきます。

しばらくすると、集めることに満足した様子でバケツの中身を真剣な眼差しで見ながら歩いたり、走ったり、、、。近くに寄ってみると、「シャカシャカ♪」とどんぐりの微かな音が聞こえてきました。体を動かすことでバケツの中のどんぐりから音が鳴ることに気づいたのでしょうか。なんとも満足気な表情でバケツを握りしめ、音を楽しんでいるようでした。

どんぐりを見つける「ワクワク感」、たくさん集めた「満足感」、そしてバケツの中から音が鳴ることの「発見」...

どんぐり拾い一つでも、子ども一人一人の面白さがあるのだと感じた場面でした。



【振り返りを踏まえた気づき】

活動:⑤自然物を見立ててあそぶ

先週から引き続き、ケーキ作りを楽しんでいた C ちゃん。
今日はその様子を見ていた D ちゃんも一緒にケーキの装飾を始めました。
公園内を散策しながら、木の枝や実、ねこじゃらしなど、のせてみたいものをたくさん集め、ひとつのケーキにトッピングしていきます。
「実があった」「これのせていい？」など、発見を共有したり、やってみたいことを提案しあったりとそれぞれの思いを確かめ合いながら二人でひとつのケーキを作り上げていましたよ。
お互いのアイデアを尊重しながら、一緒に作っていくことを楽しんでいたふたり。
お友だちと一緒に楽しいという気持ちが、相手の思いにも耳を傾けてみようという思いやりの気持ちにも繋がってきていると感じた場面でした。



【子どもたちの様子】 【振り返りを踏まえた気づき】



雨上がりの大きな水たまりを見つけたもり組さん。
その中に落ち葉が沈んでいる様子を見て「海みたい!」「じゃあお魚かな〜」とイメージを膨らませていました。落ち葉に見立てた魚を取ろうとしますが、足が水たまりに入ってしまう思うように取ることができない様子。
そこで保育者が提案し、木の棒で取ってみることにしました。「魚釣りみたいだね」と言いながら水たまりの縁に集まり真剣な表情で釣ろうとしていましたよ。落ち葉の穴に木の棒を刺してみたり、ひっかけたり...自分なりに試行錯誤しながら楽しんでいたみんなです。
その後は釣った魚を焼いて食べようとする姿もあり、見立て遊びへと遊びがどんどん広がっていましたよ。

雨上がりだからこそ広がっていった遊び。これからも季節や天気によって新しい楽しみを見つけ、「楽しい」「やってみたい」の輪を広げていきたいですね。